

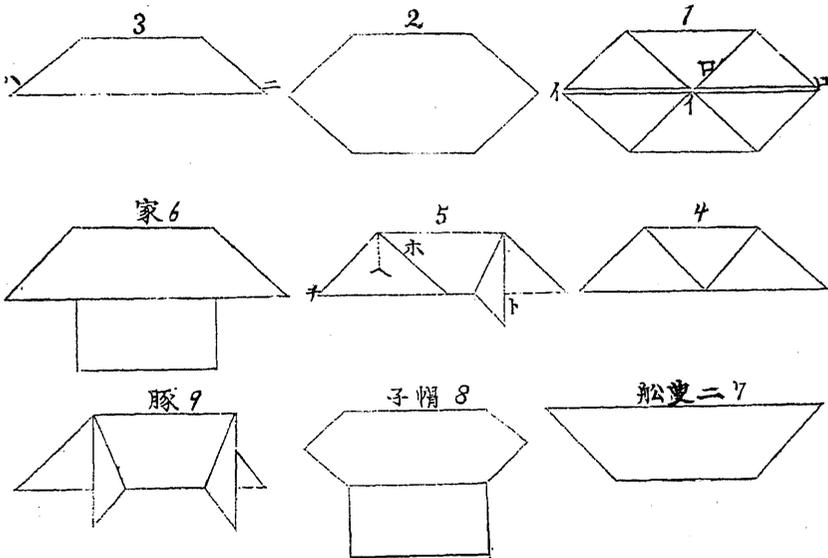
室内手遊

摺み方

前に摺み方のお話をいたしましたが、今度も亦そのつゞきを申しましよう。

扱今度は六番で、家でござります。摺み方は前の座蒲團の端を、圖の様に引き出して、家根を拵えるのです。

七番は帽子です、これは家の軒の所を、裏の方へ折つて圖の様にします。



十八

八番は二艘船、これは家を摺んで、それから下の方も家根の通りにして横に二つに折るのです、船でしよー。

九番は面白いもの、先つ家を摺んで、それから下の方も船の様に引き出して、裏がへしてみますと、1の様になつて居りますしよー、そのイワイに、口わ口に合せて、線を付けて折り返して、2の通りにし船の様に二つに折つて、3のハとニの先

きを、四つ別々に折り返して、4の様にし、次に5のホの線を、への線に合せて折つて、トの線にするのです、四所とも同じ様に、この四つわ動物の足でございませす、それからチの所を、への線から中へ折つて、一つひだを取つて又外へ折つてごらんなさい、これは尾でございませす、これで出来上りました、何と豚の様ではありませせんか。

### ワシントンの勇行 (ついで)

#### やまとの翁

抜手を切つて進み行く少年を見つめたる母親の眼の凄さ。殆、瞬一もしない。渦づ巻く水中に沈んだ時には、同時に彼女の心も沈んだ。が、再び水面に浮み出て、不屈の兩腕もて烈しく寄せかかる大濤をかき分けつゝ、子供の後追ふ少年の姿

を見た時の彼女の喜びは！

けれども悲しいかな、尊むべき少年の奇代の勇行も、今は殆んど成効の望もないかの様だ。言はゞ目前漸一丈許りの處で、急流に翻弄ばれる子供を見て居ながら、どうしても之に追つ付くことが出来ぬとは、ても倍も。

河上の光景は俄に一轉して、今や此急流第一の難所と聞こへた場所に近ついた。數十湮の間縦横に奔逸し來つた急流は、茲に淀滞して忽ち幾十尋とも底知れぬ深潭をなし、水は油を流せるが如くに静の様ではあるが、併も凄しき大渦が此處彼處に七重八重と涌き立つて居る。而して此深渦の水の、ハケる處といふのが、所謂削り成せるが如き絶壁で、巨大の響を以て落ち下るのであるから、其勢の凄しさ、天を覆ふ水煙と耳を聳する水聲と